

「命の尊さ実感して」

奈良の 獣医師 動物と少年院訪問

小さな命に触れることは、更生にとって貴重な体験。犬や猫などの動物と少年院を訪ね、罪を犯した少年や少女と語り合うボランティア活動を、奈良県の獣医師グループが続けている。



訪問活動をしているのは、同県獣医師会有志の三本隆行さんたち。三本さんは以前から「弱い者への思いやりを持って」と、動物を連れて小学校を訪ねる活動を行っていた。二〇〇四年に三本さんが保護司になった際、奈良少年院（奈良市）に頼まれ、〇六年三月に同少年院を訪問した。

〇七年秋には、前年に続いて交野女子学院（大阪府交野市）を八人で訪ねた。同女子学院には保護処分を受けて送られた

動物たちと触れると少女たちに笑顔が戻った（中央は獣医師）＝大阪府交野市の交野女子学院

十四―二十歳の計七十五人が生活している。

三本さんは、少女たちに飼い犬との死別を描いた絵本「ずーっとずつとだいたすきだよ」の感想文を書いてもらい、ペットや家族、友人のきずななどについて話し合った。その後、犬、猫、ウサギなどを抱いたりして過ごすと、硬い表情だった少女らにも笑顔が漏れ、三本さんに熱心に質問する姿が見られた。

「自宅で飼っていたりスをおもちゃのように扱えば、一カ月後に死んでしまったことを思い出した。生き物の命を大切にすべきでした」「今まで母親に自分の気持ちを素直に伝えてこなかったことを反省しました」と少女たちは思いを語った。

交野女子学院の松井陽子院長は「動物を仲立ちにして命の大切さを考えさせる授業は貴重な教育。特に少年院の事情を

把握している専門家の講座はありがたい」と、三本さんらの活動を歓迎する。

法務省少年矯正課によると、全国に五十三ある少年院の中には施設の自主的判断で動物を飼育する例もあるが、三本さんらのような出前授業は極めて少ないという。

最近、欧米では、動物を連れて学校などを訪問する動物介在活動や、治療を目的とした動物療法を教育に生かす試みが増えつつある。

動物セラピーに詳しい帝京科学大の横山章光准教授（精神医学）は「子どもに動物を合わせるだけでは慰問に過ぎない。教師や獣医師らが連携して目的を決め、プログラムを作る必要がある。三本さんらの活動は非常によく考えられていて、授業の成果を記録するなどして他の地域でも参考にできるようにしてくれれば」と話している。